

i P a d を活用した活動報告書（平成 2 4 年度：最終報告 1）

北海道八雲養護学校

事例 1

1. 基本情報

(1) 報告者氏名：愛澤文祥、吉田史人、大水雄太 (2) 所属：北海道八雲養護学校

(3) 記録日：2012年11月15日

(4) 活動内容タイトル：「高等部卒業後を視野に入れた iPad, iPod touch の活用」

(昨年度の最終報告書の「事例 4」の生徒のケースです)

(5) 活動内容の概要

生徒 A は、パソコンに関する OS の基礎知識や基本的な操作は概ね理解している (パソコン検定準 4 級合格 (H23.12))。また、個人で iPod-Touch を所有しており、病棟のベッド上で使用している。そのため、i-OS の基本操作は概ね理解している。なお、昨年度、ふでばこプロジェクトにおいて「学習面・生活面で有効活用できるアプリケーションの選定」を「情報」の授業でのレポートとして設定し、取り組んだ経緯がある。

そこで、今年度は、高等部卒業後を視野に入れて、学級活動を中心に iPad と iPod-Touch を学習支援・生活支援の道具として有効活用することを主なねらいとして、取り組むことにした。

2. 対象生徒 (生徒 A) に関する情報

(1) 学年：高等部 3 年 (教科・領域を合わせた指導の教育課程のクラス)

(2) 年齢：18 歳

(3) 障害名：デュシャンヌ型筋ジストロフィ

(4) 障害と困難の内容

・デュシャンヌ型筋ジストロフィの進行により手指の可動域が狭いものの、パソコンの操作はマウスで行うことができる。ただし、キーボードは手の可動域に見合った小型のキーボードを使用している。

・iPad は、スタイラスペン等を使うことで大体の操作が可能である。

・日頃、学校及び病棟でも iPod-touch を使用している。

・高 3 になり、高等部卒業後のスケジュール管理等も視野に入れて、学校及び病棟でも学習支援・生活支援のツールの 1 つとして、iPod-touch を使用する場面が増えてきている。



写真 1 普段の学習の様子
(教室で ipod-touch を使用している様子)

3. 活動目的

(1) 当初のねらい

生徒 A は、本校に在籍する筋ジストロフィの生徒の中では比較的手指の可動域が残存しており、iPad 及び iPod-touch のいずれもそのままの状態での使用が可能である。また、機器の基本的な操作も概ね理解している。また、生徒 A は、昨年ふでばこプロジェクトでの取り

組みの中で、iPad 及び iPod touch を学習支援・生活支援の道具として活用しつつあった。

そこで、今年度は、学級での指導を中心に、ふでばこプロジェクトで貸与された iPad と、自ら所有している iPod-touch を並行して使用し、高等部卒業後での生活も視野に入れて、情報携帯端末の有効活用することを主なねらいとして、以下の活動を行うことにした。

(2) 実施期間

- ・ 4 ~ 10 月の約 7 ヶ月間、クラスに iPad を貸し出して使用し、主に、学級のホームルームや総合的な学習の時間等で、iPad を使用した。
- ・ 4 ~ 10 月の約 7 ヶ月間、個人所有の ipod-touch を学校及び病棟で使用し、その使用状況を学級担任が確認した。また、学習支援・生活支援の道具としての活用法については、学級担任及び副担任が、学級活動の中で随時指導した。

(3) 実施者

吉田史人、大水雄太

(4) 実施者と対象生徒との関係

対象生徒の担任（吉田）、副担任（大水）

4. 活動内容と対象児の変化

(1) 対象生徒の事前の状況

生徒 A は、昨年のふでばこプロジェクトの過程の中で、すでにスケジュール管理やメモ帳を生活の中で活用し始めていた。ただし、教師から使用を促されて使っていたところが多く、自ら積極的に場面に応じて活用するという点では、まだ不十分なところが多かった。

(2) 活動の具体的内容

「レジスタディ」

< 活動場面 >

- ・ 外国語の授業（ALT による授業の際に、ハンバーガーショップでの買い物を想定した場面で、本アプリを使って、買い物の模擬体験を行い、店員役と買い物をする人の役割に分かれて使用した。
- ・ 学校祭の販売活動で使用した。販売する商品を事前にアプリに登録し、商品の画面タッチでレジの操作ができるように商品や金額の登録などの準備を教師のサポートのもと行った。また、学校祭当日も実際のレジ打ちで活用した。

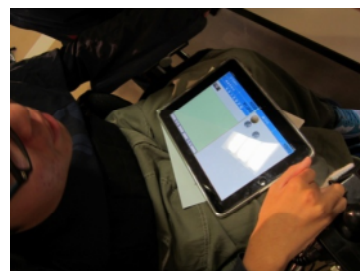


写真 2・3. 学校祭のクラス発表の販売活動で「レジスタディ」を使用している様子

< アプリの特徴及び使用効果 >

- ・ アプリの中に商品の写真と名前と金額を入力し、商品の写真をタップするだけで会計ができる。

- ・瞬時に細かい計算をすることが苦手な生徒にとっては、良い補助となっている。
- ・学校祭の販売活動では、計算ミスをすることがなく、安心できた。
- ・写真のデータを取り込む際に、学校のサーバーやインターネットの画像から取り込むなどしなくてははいけなかった。iPad 自体にカメラ機能があるとより使いやすかった。

スケジュール管理

- ・ iPod touch に標準装備されている「カレンダー」機能を使用。
- ・ 委員会活動の当番表や、学校祭に関わる打ち合わせの日時や場所などを記入して、管理していた。



写真4 iPod touchでスケジュール管理をしている様子

「カメラ」機能をメモ帳の代替として使用

- ・ iPod touch に標準装備されている「カメラ」機能を使用。
- ・ 学校祭に関わる打ち合わせなどの祭に、教師が話し合いの内容などを板書し、それを撮影して後日確認していた。
- ・ 色々な風景などを撮影し、動画配信サイトにアップしたい様子が伺われた。

ボイスレコーダー

- ・ 学校祭の劇の練習で使用。
- ・ 自分の台詞を録音し、それを聞き直して、「もう少しゆっくりはっきりしゃべろう」などと改善していた。

(3) 対象生徒の事後の変化

- ・ 生徒 A は、昨年度の「情報」の授業を通して、iPad 及び iPod touch を使用する際の意識が徐々に変わり、機器の活用法にも徐々に広がりが見られてきている。

5. 報告者の気づきとエビデンス

(1) 報告者の気づき

- ・ 生徒 A は、最近 (10 月)、新しい ipod-touch を購入した。なお、今まで使用していた ipod-touch にはカメラ機能やボイスレコーダー機能が付いていなかったため、生活支援の道具としては、メモ帳やカレンダー機能を使用する程度だった。しかし、新しい機種になってからは、使い勝手がかなり向上し、生徒 A も生活の中での使用法を工夫し、日々の生活に役立てられるようになってきたように思える。
- ・ 特に、「カメラ機能」と「ボイスレコーダー機能」は、生徒 A のように、筋ジムの疾患に加えて軽度の知的障害を有するような生徒にとっては、記憶をサポートするためにも、かなり有効な機能の 1 つであることが分かった。
- ・ 生徒 A は、学校や病棟でもパソコンを使用する場面が多い。卒業まで残り半年を切ったが、今後は iPad 及び iPod touch 用の『Dropbox』や『Evernote』などのクラウド系のアプリケーションの使い方等を習得させることで、デジタルデータをパソコンとの間でより有効に活用できるようになってくれることを期待している。

